

ボテロ展

Fernando BOTERO

「モナ・リザ」(1977) ©BOTERO 1995 Photograph: Marlborough Gallery



'95年
10月6日(金)~11月5日(日)

開館/午前9時~午後5時(展示室への入室は午後4時30分まで)
初日は午前10時より開会式
毎週金曜日は午後7時まで(展示室への入室は午後6時30分まで)
月曜日は休館

高松市美術館 高松市紺屋町10-4
Tel.(0878)23-1711

入場料/一般900円・高大生600円・小中生300円
(前売りおよび団体20名様以上は2割引)

主催/高松市美術館・読売新聞大阪本社・西日本放送・美術館連絡協議会
後援/文化庁・コロンビア大使館 協賛/花王株式会社 協力/日本航空
企画協力/マルボロ・ファインアート東京

Fernando BOTERO

ボテロの描く“ふくらんだ”人物や果物を見ると、思わず口もとがゆるんでしまいます。別にこっけいなかたちをしているわけではないのですが、そのふくらんだかたちがほほえましく、心なごむのが感じられるからです。ボテロの人物は誰でもふっくらとしてゆとりが感じられ、ときには肉感的でもあります。果物はいかにも熟してはちきれんばかりで食欲をそそります。このふくらみは現代が失った心のゆとりと牧歌的な世界をもたらしてくれます。

フェルナンド・ボテロ(1932~)は南米コロンビアの商工都市メデリンに生まれ、20歳のとき長年の夢であったヨーロッパに渡り、スペインではベラスケスやゴヤに出会い、イタリアではピエロ・デルラ・フランチェスカから古典美術の巨匠たちの作品を研究し、またフレスコ画の技術を学びました。1957年メキシコの壁画家たちの影響を受けて、形態のボリュームを膨張させるという独自の表現様式を確立し始め、59年サンパウロ・ビエンナーレに出品した〈モナ・リザ―12歳〉はセンセーションを巻き起こしました。ボテロはラテン・アメリカの田舎のありふれた風俗、闘牛、人物、肖像、聖職者像、静物、風景、あるいは古典的名画のパラフレーズなど多彩な題材をもとに、ユーモアあふれる“ふくらんだ”表現で、のびやかな心あたまる楽園を創造しています。

この展覧会では欧米だけでなく、日本でも高い評価を受けているボテロの近作を中心に、油彩画、素描、彫刻など約100点により、ボテロの魅力をあますところなく紹介いたします。

● 講演会のお知らせ

ボテロと名画礼讃

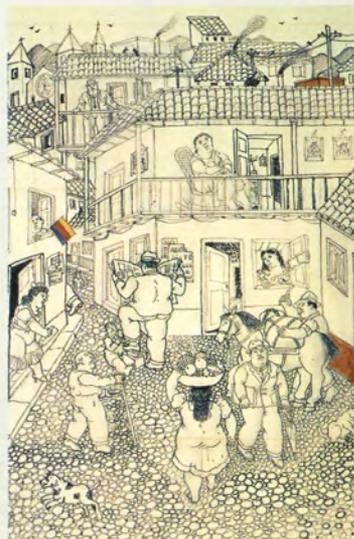
講師 岡田隆彦(詩人・美術評論家)
10月15日(日) 午後1時30分より 1階講堂にて
入場無料 先着200名様

● 次回の展覧会のお知らせ

スミソニアン・ハーシュホーン美術館所蔵
西洋近代彫刻の巨匠展
11月10日(金)~12月10日(日)



「スタジオ」(1990)



「街」(1993)



「エウロへの誘拐」(1992)



「家族」(1989)



「アイスクリームのある静物」(1990)



「やり過ぎの技」(1986)